

ケース 1 定期外来 (医師向け)

あなたは地域の診療所で勤務しています。

患者氏名は佐藤愛さん（35 歳）、保険証の性別は女性です。

数年前から気管支喘息で定期通院されています。

既往歴：偏頭痛

手術歴：なし

服薬歴：シムビコート吸入

喫煙歴：禁煙 2 年前まで 10 本／日 × 10 年

飲酒歴：機会飲酒（1-2 合未満／回程度）

アレルギー歴：なし

予診票に「体調変わりなし。ホルモン治療の相談をしたい」という記載があります。

- ・患者さんの問診をしてください
(ロールプレイは患者さんのセリフから始まります)



ケース 1 定期外来 (模擬患者向け)

氏名：佐藤愛 年齢：35 歳

戸籍性・保険証の性別：女性

既往歴：偏頭痛 手術歴：なし 服薬歴：シムビコートの吸入

喫煙歴：禁煙 2 年前まで 10 本/日 × 10 年

飲酒歴：機会飲酒（1-2 合未満/回程度） アレルギー歴：なし

[患者情報]

性自認は男性寄りの X ジェンダー、性的指向は男性。

男性のパートナーと同居しているが、家族にはカミングアウトはしていない。職業は事務職で、職場の一部の人にはホルモン療法を開始していることを伝えているが、全体にはカミングアウトはしていない。

ジェンダークリニック（精神科）に通院し、最近、性別違和との診断を受けた。戸籍名を佐藤愛から佐藤蓮に変更する予定である。また近々、男性ホルモンの注射を開始する予定であるが、少し心配もしている。数年前から気管支喘息で定期通院している内科のクリニックに氏名を変更する件についても伝える必要があると感じ、今回予診票に「体調変わりなし。ホルモン治療の相談をしたい」と記載した。

開始のセリフ：「先生にお話しておいた方がいいと思って。実は、近々男性ホルモンの注射を始めることになりました。」

- ・性自認について聞かれた場合：（X ジェンダー）女性であることに違和感はあるが、完全に男性というわけではない
- ・何か心配なことはあるか？知っておいた方がいいことはあるか？と聞かれた場合：戸籍名を変える予定であることを伝える
- ・スタッフにどこまで伝えていいか：名前を変えることについてはスタッフ間で共有して欲しいが、ホルモン療法を開始することはまだ伝えないで欲しい
- ・批判的に対応：（黙るなどネガティブな反応をお願いします）

<ポイント>

- ・affirmative な態度での傾聴
- ・男性になりたいわけではないという点（nonbinary）の理解
- ・医療者、医療機関に対して希望する対応/配慮を聞けるか
- ・アウトティングの防止を意識できるか（医療機関内/患者家族など）
- ・臓器の状況、今後の性別適合治療の状況、診断の状況の確認



ケース 2 救急初診外来 (医師向け)

あなたは救急外来で内科当直をしています。

患者氏名は藤原大輔さん（32 歳）、保険証の性別は女性です。

1 時間前からの突然発症の右下腹部痛を主訴に救急外来に受診しました。看護師が予診、嘔気を伴う持続した NRS9/10 のうずくまるような強い痛みが持続しており、徐々に悪化しています。

下痢、便秘、嘔吐なし。生ものの摂取なし。

[予診票の記載]

性別欄：男性

既往歴：なし

手術歴：乳房切除

服薬歴：内服なし

(女性の方にお聞きします) 妊娠の可能性はありますか? : (空欄)

- ・月経歴・妊娠可能性について問診をしてください
(患者さんへの挨拶からスタートしてください)



ケース 2 救急初診外来 (模擬患者向け)

氏名：藤原大輔 年齢：32 歳

戸籍性・保険証の性別：女性

1 時間前からの突然お腹の右下が痛くなった。吐き気もあるがなんとか吐かずに済んでいる。うずくまるような強い痛みが持続しており、徐々に悪化している。下痢や便秘はなく、生ものの摂取もなし。

[予診票の記載]

性別欄：男性

既往歴：なし 手術歴：乳房切除

服薬歴：内服なし

(女性の方にお聞きします) 妊娠の可能性はありますか? : (空欄)

[患者情報]

性別違和の診断を受け、戸籍上の氏名は変更したが、性別変更はしていない。乳房切除のみで、子宮卵巢は残っている。ホルモン注射を 2 週に 1 回行っている。

・妊娠の可能性はありますか?

* 質問する理由の説明がない場合：不機嫌に「答えたくありません」

* 質問する理由が明確に説明された場合：「ありません」と答える

ただし、女性の方にお伺いしています、と枕詞ついた場合には不機嫌に答える

・性交渉歴はありますか?

* 質問する理由の説明がない場合：不機嫌に「答えたくありません」

* 質問する理由が明確に説明された場合：「あります」と答える

詳細に尋ねられたら以下を答える

(女性、パートナーは 1 名、主にオーラルとセックストイを使用。デンタルダムなどの予防はなし、性感染症の既往なし、避妊なし。妊娠歴・中絶歴あり)

・最終月経：「もう何年もありません」

* ホルモン療法をやっているか：2 週に 1 回男性ホルモンの注射を打っている

* 子宮・卵巢についての質問があった場合：手術は行っていないと答える

<ポイント>

・薬のことを聞かれても、ホルモン注射のことを書かない可能性・卵巢捻転、子宮外妊娠など緊急性の高い疾患を疑う症例

・急性腹症・画像検査のため妊娠可能性を確認する必要あり

・現在の臓器の適切な問診

・妊娠可能性の適切な問診 (情報が必要な理由を説明する)

・性自認に配慮した言葉遣いができる

・アウトティングの防止を意識できるか (医療機関内/患者家族など)



ケース3：入院主治医 (医師向け)

あなたは地域病院で働いている内科医です。

患者氏名は中野拓也さん（30歳）、保険証の性別は男性です。

腹痛を主訴に救急受診、憩室炎の診断で保存加療目的に入院することになり、あなたは入院主治医として担当することになりました。

救急からの申し送りで「トランスジェンダーの方。入院中の通称名利用、女性部屋での入院を希望」とのことです。

病棟看護師長に対応について相談すると「主治医の方でまず詳しく話を聞いてきてください」と言われました。

- ・入院中の対応について、ご本人の要望を確認してください。

（細かな病院単位の対応についてはみなさんが勤務している/していた病院を想定していただければ結構です）



ケース3：入院主治医 (模擬患者向け)

氏名：中野拓也さん 年齢：30歳

戸籍性・保険証の性別：男性

腹痛で病院の救急外来に行ったところ「憩室炎」として入院が必要と言われた。救急の看護師に「トランスジェンダーなので入院中は通称名で入院したい。女性部屋での入院をできないか」と聞いたところ、入院の担当医に伝えてもよろしいですかと言われ、了承した。処置室のベッドで横になりしばらく待っていると、主治医らしき先生がやってきた。

[患者情報]

心療内科にて性別違和の診断を受け、ホルモン療法（エストラーナテープ）を行なっている。手術は受けていない。男性部屋に入院することは絶対に避けたい。

- ・性自認について確認された場合：「トランス女性」と答える
- ・スタッフ間の情報共有について：主治医には知っておいてもらいたいが、他のスタッフの人には言わないでほしい

- ・伝えたい要望：

「通称名で入院できますか？」

「女性部屋に入院させてもらうことはできますか？」

「入院中にホルモン療法はできますか？」

<ポイント>

- ・医師から患者に最初にかける一言がフレンドリーか
- ・まず患者の要望を傾聴してくれる姿勢があるか
- ・情報の共有についての確認（アウトティングの防止への考慮）：救急医→入院主治医までの伝達は本人の許可があるが、主治医からほかは確認しなければならない
- ・実現性を考えたときに追加で聞くこと
- ・診断書の有無、保険証の氏名の確認
- ・通称名利用が可能か
- ・具体的な提案までやり取りが進むなら：
女性部屋での対応ならどのような方法が取れるか、難しい場合の代替は？
例：部屋は無理でも、トイレは、など



[謝辞]

ロールプレイのための本シナリオの作成にあたり、近藤 歩 様、平尾 春華 様、丸山 まさよし 様に多大なご助言、ご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。

